

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	地理歴史
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 世界史・日本史・地理関係科目について、各科目の相互の連携を図り、歴史的な見方や考え方、地理的な見方や考え方を育成する授業実践の研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	ほっかいどうだてみどりがおかこうがっこう 北海道伊達緑丘高等学校（427名）				
所在地（電話番号）	〒059-0273 北海道伊達市南稀府町 180 番地 4（0142-24-3021）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.datemidorigaoka.hokkaido-c.ed.jp				
研究のキーワード 「科目相互の連携」 「主体的・対話的で深い学び」 「思考力・判断力・表現力等の育成」 「歴史的な見方や考え方」					
研究結果のポイント ○ 科目相互の連携を図ることにより、世界史 A、日本史 A をはじめとする地理歴史科各科目に関する学習意欲の向上や学ぶ意義について、理解が深まる傾向が見られた。 ○ 科目相互の連携を踏まえ、単元等のまとまりを見通した「主体的・対話的で深い学び」や言語活動の充実を図ることにより、思考力・判断力・表現力等のほか、歴史の学び方、「歴史的な見方や考え方」の育成に大きな効果が見られた。 ○ 科目相互の関連を学ばせることにより、地理歴史科各科目に対して苦手意識を持つ生徒の学習改善につながった。					

1 研究主題等

(1) 研究主題

地理歴史科における科目相互の連携を図った授業実践の研究

【研究仮説】地理歴史科における科目相互の連携を図り、社会的事象の意味や意義、概念等を関連付けて総合的に捉えさせることにより、地理歴史についての学習意欲や学力をより向上させることができるのではないか。

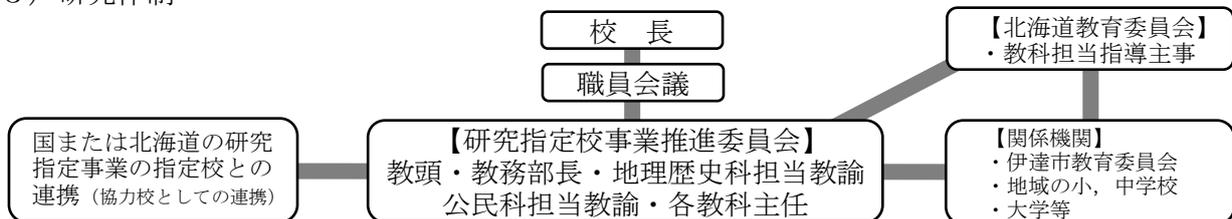
(2) 研究主題設定の理由

本校では、学習活動と部活動とを両立させ、健全な心身の発達を促す教育活動の充実を図っており、生徒は比較的落ち着いた学校生活を送っている。しかしながら、「北海道学力等実態調査（H27）」では、基礎的学力は概ね定着しているものの、「高校入学前に比べ学習意欲が高まった」と回答した生徒が 46.5%、「高校入学前に比べ授業以外の学習時間が増えた」と回答した生徒が 36.8%と道内平均を下回る傾向となっており、生徒の学習意欲と学習時間に課題がみられた。

このことは地理歴史科の学習においても同様の傾向が見られ、主体的に学習する意欲や態度、思考力・判断力・表現力等においても課題が見受けられた。また授業においても、各科目で習得した知識や技能、社会的な見方や考え方を活用したり、科目相互の関連性を踏まえて考察・構想したりする場面が不足しており、授業改善の必要性も痛感するところであった。

こうしたことから、世界史・日本史・地理において科目相互の連携を図り、歴史的な見方や考え方、地理的な見方や考え方を育成するとともに、問いを追究する学習活動を通して学習意欲を向上させ、思考力・判断力・表現力等を育成することをねらいとして研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業推進委員会，教科部会等において研究の方向性や方法について確認（4月） ○ 「地理歴史科授業・学習アンケート」（前期分）の実施，結果のまとめ・分析（5月） ○ 国立教育政策研究所「教育課程研究指定校事業」に伴う研究協議会（7月） … 研究授業（世界史A，日本史A），調査官による講演，研究協議 等 ○ 史跡北黄金貝塚を活用した体験学習「縄文遺跡体験学習」（1月）の実施（10月） ○ 公開授業週間における授業公開（11月） ○ 「北海道高等学校学力向上実践事業」平成28年度教科指導講座（道南ブロック地理歴史・公民）における実践発表（11月） … 研究授業，研究協議（本研究の実践報告），外部によるアンケート評価 等 ○ 「地理歴史科授業・学習アンケート」（後期分）の実施，結果のまとめ・分析（11月） ○ 次年度における指導・評価計画の作成 ○ 先進校視察訪問（長崎県佐世保北高等学校，北海道浦河高等学校） ○ 研究成果の公開（学校ホームページ等）
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業推進委員会，教科部会等において研究の方向性や方法について確認（4月） ○ 「地理歴史科授業・学習アンケート」（前期分）の実施，結果のまとめ・分析（5月） ○ 地域の教育資源を活用した歴史学習（2年）の実施（7月） ○ 国立教育政策研究所「教育課程研究指定校事業」に伴う研究協議会（9月） … 研究授業（世界史A，日本史A），調査官による講演，研究協議 等 ○ 史跡北黄金貝塚を活用した体験学習「縄文遺跡体験学習」（2年）の実施（9月） ○ 「北海道高等学校学力向上実践事業」平成29年度教科指導講座（道南ブロック地理歴史・公民）における実践発表（10月） ○ 公開授業週間における授業公開（11月） ○ 「地理歴史科授業・学習アンケート」（後期分）の実施，結果のまとめ・分析（11月） ○ 洞爺湖有珠山ジオパークを題材とした地理歴史授業（3月） ○ 先進校視察訪問（神戸大学附属中等教育学校，専修大学附属高等学校） ○ 研究のまとめ（研究紀要作成） ○ 研究成果の公開（学校ホームページ等）

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

ア 世界史A及び日本史Aにおいて科目相互の連携を図り，歴史的な見方や考え方を育成する授業実践

① 近現代の歴史を中心に，世界とそこにおける日本をそれぞれの視座から捉えるとともに相互に関連付けるための単元の学習内容の工夫と精選を図った。

例)「結び付く世界と日本」「産業社会の到来と政治の変革」「日本の改革」「アジア・アフリカの変容」「政治参加と社会運動」「総力戦体制」「国際紛争と国際協調」「大戦後の世界と日本」「多極化と地域統合」「世界との中の日本」等

② 単元の基軸となる「大きな問い」を設定するとともに，生徒が考察するためにより具体的な「小さな問い」をいくつか設け，段階的に「大きな問い」の考察へと向かうよう単元の学習内容と問いの構造化を図った。

③ 多面的・多角的に考察することができるよう，多様な資史料を効果的に活用した。

④ 歴史の大きな転換点に着目しながら，現代的な諸課題につながる事象を捉えさせるとともに，よりよい社会の在り方について意欲的に追究させた。

⑤ 「主体的・対話的で深い学び」の実現や言語活動の充実を図ることにより，思考力・判断力・表現力等の育成や，歴史を学ぶ意義についての深化を図った。

⑥ 評価規準を明確化するとともに，ペーパーテストやワークシート等の成果物，小テストなど，複数の評価材料を工夫した。また，知識・理解の評価に偏重することのないよう観点のバランスに配慮するほか，効果的な評価問題の開発に取り組んだ。

イ 地域の教育資源を活用した体験的な学習活動の実施

① 史跡北黄金貝塚を活用した「縄文遺跡体験学習」（1年）を実施した。

- ② 地域人材を活用した歴史学習（2年）を実施した。
- ③ 洞爺湖有珠山ジオパークと連携した地理歴史授業（3年）を実施した。

ウ 研究成果・課題の検証

生徒の学習意欲や学力、歴史的な見方や考え方の状況について、ペーパーテストの結果やワークシート等の取組などから検証した。また「学習・授業アンケート」（年2回）の実施により、生徒の学習状況について把握するとともに、取組の評価・検証を行った。

(2) 具体的な研究活動

ア 科目相互の連携（特に、世界史A及び日本史Aにおける関連）を図り、歴史的な見方や考え方を育成する授業実践

- ① 世界史A（1年必修）及び日本史A（2年選択）において、近現代の歴史を中心に世界とその中における日本を、広く双方向の視座から関連を捉えさせる授業を、年間を通じて実施した。年間指導計画の作成に当たっては、単元の基軸となる「大きな問い」とともに1時間ごとに追究する「小さな問い」を設定し、課題解決プロセスに基づく学習過程（課題把握→課題追究→課題解決）となるよう単元の学習内容を構成した。

——【単元等のまとめを見通した具体的実践例（問いの例）】——

○世界史Aにおける具体的実践例「結び付く世界と近世の日本（全8時間）」

〈単元の基軸となる問い〉異なる地域同士の接触と交流は何をもたらしたか

次程	小さな問い（SQ）	主な評価の観点
第1次	なぜ石見銀山はヨーロッパにも知られていたのだろうか	思考・判断・表現
第2次	なぜ明は足利義満に貿易を許可したのだろうか	資料活用 of 技能
第3次	なぜ清は貿易港を広州1港のみに限定したのか	資料活用 of 技能
第4次	制限貿易（海禁・鎖国）と自由貿易ではどちらがよいか	思考・判断・表現
第5次	「コロンブスの交換」は何をもたらしたか	関心・意欲・態度
第6次	なぜカトリックは否定されたのだろうか	知識・理解
第7次	旧教・新教の対立はヨーロッパに何をもたらしたか	知識・理解
第8次	なぜキリスト教は日本の権力者に認められなかったのか	関心・意欲・態度

○日本史Aにおける具体的実践例「日清・日露戦争（全6時間）」

〈単元の基軸となる問い〉異なる地域同士の接触と交流は何をもたらしたか

次程	小さな問い（SQ）	主な評価の観点
第1次	日清・日露戦争を経て国際環境はどのように変化したか	資料活用 of 技能
第2次	清や朝鮮の改革はなぜ成功しなかったのか	知識・理解
第3次	日本は東アジアと連帯すべきか、対決すべきか	思考・判断・表現
第4次	日露開戦に賛成か、反対か	思考・判断・表現
第5次	日露戦争の結果を国際世論はどう見ていたか	知識・理解
第6次	日本の帝国主義化は何をもたらしたか	関心・意欲・態度

- ② 歴史の学び方、歴史的な見方や考え方を身に付けさせるために、問いの考察に当たっては事象の推移、事象同士の比較（類似・差異）、事象同士の因果関係（背景・影響・相互関係）などに着目できるようワークシート等を工夫した。また、多様な資料を提示して複数の立場から多面的・多角的に思考・判断させるとともに、ペアワークやグループ学習を適宜行うことにより他者と考えを共有したり、話し合わせたりするなどして「主体的・対話的で深い学び」の実現や言語活動の充実を図った。

- ③ ワークシートにおける学習のまとめやリフレクションカードの活用等により、生徒が主体的に学習を見通すとともに、学習を振り返る場面を設定し、そのつながりを意識させた。

イ 地域の教育資源を活用した体験的な学習活動の実施

地域の素材・人材を活用した体験的・協働的な学習を通して、グローバルな視点から郷土の自然や文化遺産に対する理解を深めるとともに、地理的な見方や考え方、歴史的な見方や考え方（自然環境と生活・文化史との相互作用等）を育成するため、「縄文遺跡体験学習」「地域人材を活用した歴史学習」「洞爺湖有珠山ジオパークと連携した学習」を実施した。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

〈「授業・学習アンケート」(平成 29 年 11 月実施)の結果より〉

【科目相互の連携を図った「世界史A」「日本史A」を受講した生徒による回答】

質問項目	日本史	国語	数学	理科	外国語
①この科目が好きだ	52%	52%	35%	45%	61%
②授業内容は理解できる	80%	61%	49%	64%	75%
③意欲的に授業に取り組んでいる	79%	50%	68%	70%	77%
④テストは難しいと思う	77%	60%	68%	63%	43%
⑤もっとレベルの高い授業をしてほしい	4%	20%	14%	8%	20%
⑥話合いやグループ学習等の時間がある	98%	0%	1%	44%	96%
⑦宿題がよく出される	82%	2%	70%	43%	67%
⑧家庭学習に取り組むことが比較的多い	65%	7%	63%	45%	58%

(※上表は2年「日本史A」受講生徒の回答であり、数値は肯定的回答の割合)

	1年世	2年日
・授業を通して「世界史と日本史はつながっている」と実感しているか	57%	82%
・「世界史」と「日本史」との関連を学ぶことは大切であると思うか	77%	92%
・歴史を学ぶことは多様な社会を生きる上で必要であると思うか	63%	82%
・「世界史」の授業において「日本史」との関連に触れることで、より「世界史(日本を含めた歴史全体像)」への理解が深まると思う。	79%	85%
・「世界史」の授業の中で日本史の内容や世界と日本の結び付きに触れることは、世界史の内容理解や苦手意識の克服につながると思うか	64%	
・「世界史」の学習が「日本史」の学習に生かされていると思うか		73%
・「世界史」「日本史」の授業を通して、世界や日本との結び付きや相互の歴史文化、現代的な諸課題についての関心が高まったと思うか		62%
・「世界史」「日本史」の授業を通して、思考力(考える力)や表現力(文章やレポートにまとめたり、発表したりする力)が高まったと思うか		78%
・「世界史」「日本史」の授業を通して、知識の吸収だけでなく、歴史的な見方や考え方を身に付けることができたと思うか		77%
・好きか嫌いにかかわらず、「世界史・日本史・地理」すべてを学ぶことは大切である。	60%	79%

(※上表の数値は肯定的回答の割合)

- 第1学年(世界史Aを履修)では、7割を超える生徒が「世界史と日本史との関連が重要である」と捉えている一方で、6割の生徒が「日本史との関連に触れることで、世界史の内容理解や苦手意識の克服につながる」と感じている。このことから、科目相互の関連を学ばせることにより、地理歴史に対して苦手意識を持つ生徒の学習改善につながった。
- 第2学年(日本史Aを履修)では、9割を超える生徒が「世界史と日本史との関連が重要である」と捉えており、本研究で2年間にわたり実践してきた科目相互の連携や単元等のまとまりを見通した学び、問いの追究などにより、歴史を学ぶ意義を理解させるとともに歴史的な見方や考え方を身に付けさせることについて、一定の成果を上げることができた。
- 言語活動を重視した授業実践により、思考力・判断力・表現力等の育成を図ることができたほか、生徒同士の「主体的・対話的で深い学び」の実現により、歴史文化や現代的な諸課題についての関心を高めることができた。
- 約2割の生徒は歴史の学習を否定的に捉えており、引き続き、学習指導及び評価方法等の工夫改善が必要である。

4 今後の取組

研究の結果を踏まえた見直しと改善を図り、地理的な見方や考え方、歴史的な見方や考え方を育成する授業実践を継続するとともに、研究成果の普及に努めたい。